

6月 24-30 日

詩編 54-56 編

48 番の歌と祈り | 開会の言葉 (1分) 有田 悟 | 田中 克彦

神の言葉の宝

1. 神が味方になってくださる (10分) 滝 秀貞

恐れを感じる時、ダビデのようにエホバに頼る。（詩 56:1-4 神よ、親切を示してください。死にゆく人間が私を攻撃する(*にかみつく)から。彼らは一日中戦って私を虐げる。2 敵は一日中かみつこうとする。私と戦う高慢な人が大勢いる。3 私は恐れる時、あなたに頼る。4 神に頼る。その方の言葉を賛美する。神に頼る。私は恐れない。単なる人が私に何を行えるというのだろう。 塔 06 8/1 22 ページ 10-11 節）

エホバは忍耐するあなたのことを誇らしく思っていて、助けてくださる。（詩 56:8 私の放浪の歩みをあなたはよく知っています。私の涙をあなたの革袋に集めてください。あなたの書に記されている私の涙を。 近 243 ページ 9 節）

エホバはあなたの味方。ずっと害を受けたままにはされない（詩 56:9-13 私が助けを求めるその日に、敵は退却する。私は確信している。神が味方であることを。10 神に頼る。その方の言葉を賛美する。エホバに頼る。その方の言葉を賛美する。11 神に頼る。私は恐れない。単なる人間が私に何を行えるというのだろう。12 神よ、私はあなたに誓約したことを守っています。あなたに感謝の犠牲を捧げます。13 あなたは私を死から助け出し、つまずかないようにしてくださいました。命の光に照らされながら神の前で歩めるように。 ロマ 8:36-39 確かに、「私たちがあなたのために一日中死にさらされている。ほふられる羊のように見なされた」と書かれています。37 しかし、私たちは、愛してくださった方により、これらのことがある中で完全な勝利を収めています。38 私は確信しています。死も、生も、天使も、政府も、今あるものも、これから来るものも、力も、39 高さも、深さも、ほかのどんな創造物も、主であるキリスト・イエスを通して示される神の愛から私たちを引き離すことはできません。 塔研 22.06 18 ページ 16-17 節）



2. 宝石を探し出す（10分）大谷 正

詩 55:12, 13 私をあざけるのは敵ではない。敵であれば、耐えられただろう。私に向かって立ち上がったのは敵ではない。敵であれば、私は身を隠せただろう。13だが、それはあなた、私のような人。よく知っている私の仲間エホバはユダがイエスを裏切るように運命づけていたか。（洞-2 1112-1113[予知、あらかじめ定める]）裏切りを働くに至ったユダ・イスカリオテの歩みは、神の預言を成就し、み子の予知力のみならずエホバの予知力を実証しました。（詩 41:9; 55:12, 13; 109:8; 使徒 1:16-20）しかし、神はユダ自身がそのような歩み方をするようあらかじめ定めておられたとか、そのように運命づけておられたなどと言うことはできません。①預言は、イエスの親しい知人のだれかが裏切り者になることを予告していましたが、そうした知人のうちのだれが裏切り者になるかは特定していました。②この場合も、聖書の原則からすれば、神がユダの行動をあらかじめ定めていたとは考えられません。使徒が述べた神の規準によれば、「だれに対しても決して性急に手を置いてはなりません。また、他の人の罪にあずかる者となつてはなりません。自分を貞潔に保ちなさい」と言われています。（テモ一 5:22。テモ一 3:6 と比較。）イエスは12使徒の選択を賢明に、また正しく行なうことに対する関心のほどを表わし、ご自分の決定を知らせる前に夜通しみ父に祈られました。（ルカ 6:12-16）もしユダが裏切り者になることがすでに神によってあらかじめ定められていたとすれば、神の指示や導きは矛盾していることになり、前述の規則によれば、神はその人が犯した罪にあずかる者となってしまいます。

それで、ユダが使徒として選ばれた時点で、ユダの心が反逆的な態度の明確な証拠を何も示していないかったことは明らかであると思われます。③ユダは、「有毒な根が生え出て」自分が汚されるのを許し、結果として道から外れ、神の導きを受け入れるのではなく悪魔の指導を受け入れて、泥棒と背信の道に進みました。（ヘブ 12:14, 15; ヨハ 13:2; 使徒 1:24, 25; ヤコ 1:14, 15。「ユダ、II」4項を参照。）こうした逸脱がある段階にまで達した時、イエスご自身もユダの心を読み、その裏切りを予告することがおできになりました。—ヨハ 13:10, 11 イエスは言った。「体を洗った人は全身が清く、足以外は洗う必要がありません。あなたたちは清いのです。しかし全員ではありません」。11 イエスは、自分を裏切ろうとしている者を知っていたので、「全員が清いのではない」と言ったのである。

（この論議は非常に重要で、エホバが最初の人間として創造したアダムも、最初から反逆の傾向を持っていた訳でも誰かに騙された訳でもなく、理性を働かせて自ら反逆の道を選んでしまい、エホバを裏切るように運命づけられていた訳ではないことは明らか。）

今週の範囲からどんな宝石を見つけたか。54:6/神の名を賛美つまり人々に伝える大切な理由について「それは良いこと」と説明。この関連聖句の脚注には「*あなたの名は良いもの」とあった。先の塔研究で、エホバの組織がイエスの手本に倣い神のお名前を復元したことや、それが誠実な人の心を動かすことも知った。私たちも詩編 83:18 節などを用いてお名前を伝えたい。

3. 聖書朗読 伊藤 勇一 教励 10

（4分）詩 55:1-23（教励 第10課）

野外奉仕に励む

4. 会話を始める 有川 聖七 教励 11 浮田 蒼

(3分) 公共エリア伝道。聖書レッスンについて話し、聖書レッスン紹介用コンタクトカードを渡す。 (教励 第 11 課)

5. 再び話し合う 宮城 ひかる 愛込 7-4 水品 由美子

(4分) 日常生活で。 (愛込 レッスン 7 ポイント 4)

6. 話 長谷川 貴史 教励 9

(5分) 塔研 23.01 29-30 ページ 12-14 節 主題: イエスの愛について考えると勇気を持てる。画像を参照。 (教励 第 9 課)



クリスチャンとして生活する

153 番の歌

7. 「何があっても喜べる剣」 (5分) 討議。 米山 英行



動画を再生する。次の質問をする。

・怖いと思う時にできることについて、ドウグベ兄弟のコメントから何を学べますか。

①まずエホバとの関係が大切で、祈りによる助けにより大変な状況でも安定を保てた。

②また内戦を生き延びられたのは兄弟姉妹からの助けがあったため。兄弟関係の大切さ実感

(全てが崩壊するとき、周りの全てが混沌としている時、唯一確かなのはエホバとの関係。幼少の頃は恵まれて安定していた。しかし9歳の時、反乱軍が政府を倒そうとしているというニュースが流れ、それだけで人々はパニックになった。店は

次々に締り、町の明かりが消え、電気や水道など全てがとまった。その後の数年は本当に不安定だった。1996年に再び全てが崩壊した。全面戦争で、今回反乱軍は首都に居た。略奪が横行した。あちこちで銃撃があった。反乱軍は一緒に鬪わない人たちを拷問した。—そういう状況で人々は恐れパニックになる。怖くなった時、最善の対処方はエホバへの祈り。今どうすべきかについてエホバに具体的に尋ねる。戦闘が激しくなって近くまで迫ってきたので、もう安全ではなかった。避難する必要があり、支部に逃げ込んだ。兄弟たちはとても親切で、良く世話をしてくれた。集会や奉仕を続けられるようにしてくれた。今思うと生き延びられたのは感謝でしかない。2つのことに助けられた。①まずエホバとの関係、それは安定を保つのに不可欠。②また生き延びられたのは兄弟姉妹からの助けのおかげでもある。そうした試練の時には兄弟関係がどれほど大切かを実感。ベテルのオーディオビデオサービスで奉仕できることに大きな喜びを感じている。一緒に働く兄弟姉妹を愛している。私が今生きて毎日奉仕できるのは、全てエホバのおかげ。)

8. 6月の「組織の活動の進展」 有田 悟

(10分) [動画を再生する。](#)

9. 会衆の聖書研究 田中 慶一 朗読: 長谷川 瑛一

(30分) [徹11章11-19節](#)

閉会の言葉 (3分) | [70番の歌](#)と祈り 星 延宏

^ (詩 54:0-56:13) 指揮者へ。弦楽器の伴奏と共に。マスキル*。ダビデによる。ジフの人たちが来て、「ダビデは私たちの所に隠れている」とサウルに言った時。54 神よ、あなたの名によって私を救ってください。あなたの力で私を守って*ください。2 神よ、私の祈りを聞いてください。私の言葉に注意を払ってください。3 よそ者たちが私に敵対します。残酷な人が私の命を狙います。彼らは神を敬い*ません。(セラ) 4 神は私を助ける方。エホバは私を支える人たちと共にいます。5 神は私の敵に報います。たくさん悪は彼ら自身に降り掛かります。あなたの真実さに従って彼らを消し去ってください。6 私は進んであなたに犠牲を捧げます。エホバ、あなたの名を賛美します。それは良いこと*だからです。7 神はあらゆる苦難から救ってくださいます。私は勝ち誇って敵を見ます。

指揮者へ。弦楽器の伴奏と共に。マスキル*。ダビデによる。55 神よ、私の祈りを聞いてください。憐れみを求める願いを無視しないで*ください。2 私に注意を払い、答えてください。不安で心が休まりません。私は取り乱しています。3 敵の言葉と悪人の圧力のせいで。彼らは私を散々苦しめ、私に怒りと敵意を抱く。4 私の心は苦悩し、私は死の恐怖に圧倒される。5 恐れてびくびくし、身震いが止まらない。6 私は言い続ける。「ハトのように翼があれば、飛んでいって安全な所に住めるのに! 7 遠くに逃げて、荒野で夜を過ごせるのに! (セラ) 8 荒れ狂う風から、嵐から逃れて、避難所へすぐに行けるのに!」9 エホバ、彼らを混乱させ、計画を阻んで*ください。私は都の中で暴力と争いを見たからです。10 それらは昼も夜も城壁の上を歩き回るかのようだ。悪意と災難が都の中にある。11 そこには破滅がある。虐げと欺きが広場から離れることはない。12 私をあざけるのは敵ではない。敵であれば、耐えられただろう。私に向かって立